受験科目：環境生態学

２０２６年度 大学院入学試験問題 【専門科目 専門Ⅰ】

２０２６ Fukuoka Institute of Technology Graduate School Entrance Examination

受験番号 Examination No.		氏名 Name		評点欄 score	
社会環境学専攻 Socio-Environmental Studies Field of Study					

【設問】

問1　以下の設問を、あなたが環境コンサルタント会社の社員だった時を想像して答えてください。
筑後川水系の小石原川で魚類相調査をすると、アカザ、アブラボテ、アリアケギバチ、イトモロコ、オイカワ、オヤニラミ、カネヒラ、カジカ、カムルチー、カワムツ、カワヨシノボリ、ギギ、セボシタビラ、ドンコ、ヤマトシマドジョウ、ムギツクが採集されました。これらの種の中から、(a)国内外来種、 (b) 国外外来種、 (c) 環境省版レッドリストで最も絶滅の危険性が高い種、をそれぞれ一種ずつ答えてください。

(a)　　(b)　　(c)

問2　以下の設問を、あなたが河川管理者だった時を想像して答えてください。
とある河川の河口域で、河川の流下能力を増やすために砂州の掘削工事を実施する必要が出てきました。そこで、工事実施箇所で事前に採集調査をした結果、環境省版レッドリストで絶滅危惧ⅠB類のクボハゼ、絶滅危惧Ⅱ類のタビラクチ、準絶滅危惧のヒモハゼが採集されました。この結果を踏まえて、あなたはどのような手順で掘削工事を実施するか答えてください。

問3　以下の設問を、あなたが都道府県の水産試験場の職員だった時を想像して答えてください。
とある河川の漁業協同組合から、「ここ10年ほどアユが不漁であり、特にこの2、3年は以前の漁獲量の10分の1程度に減少してしまったので、その原因と、漁獲量を増やすための対策を教えて欲しい」との相談があった。なお、その河川におけるアユの放流量、放流場所、放流時期は過去30年間変わっておらず、本川には目立った横断構造物（堰やダム）はない。また、BOD等の水質については10年間ではほとんど変化がなく、いわゆる水質の良好な河川である。アユの生態や生活史を踏まえ、その河川でアユが減少した要因として考えられるものを思いつく限り挙げ、さらにそれぞれの要因に対しての対策についても考えてください。